

資母まちづくり協議会



地区の概況

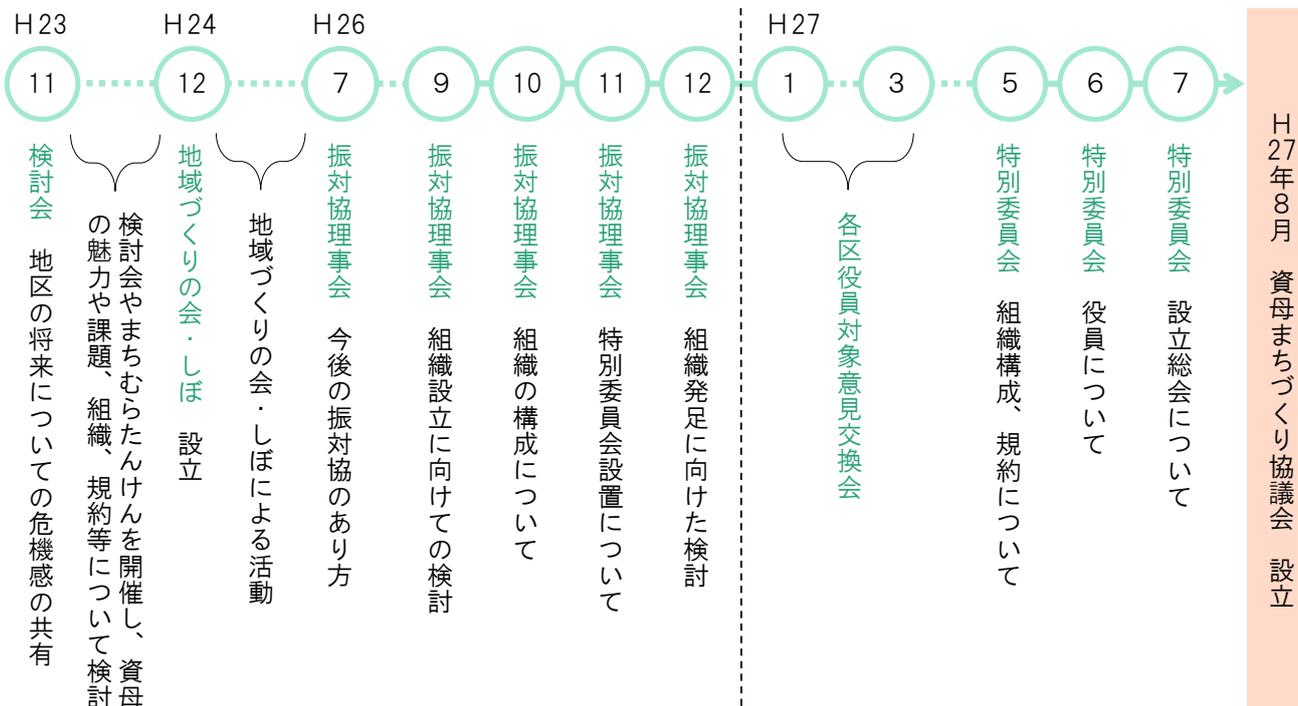
人口	1,756 人	小学校	資母小学校（児童数 67 人）
世帯数	684 世帯	中学校	なし（但東中学校区）
高齢化率	43.5%	幼稚園	なし
集落数	17	保育園	なし
		こども園	資母認定こども園（園児数 36 人）

組織の状況

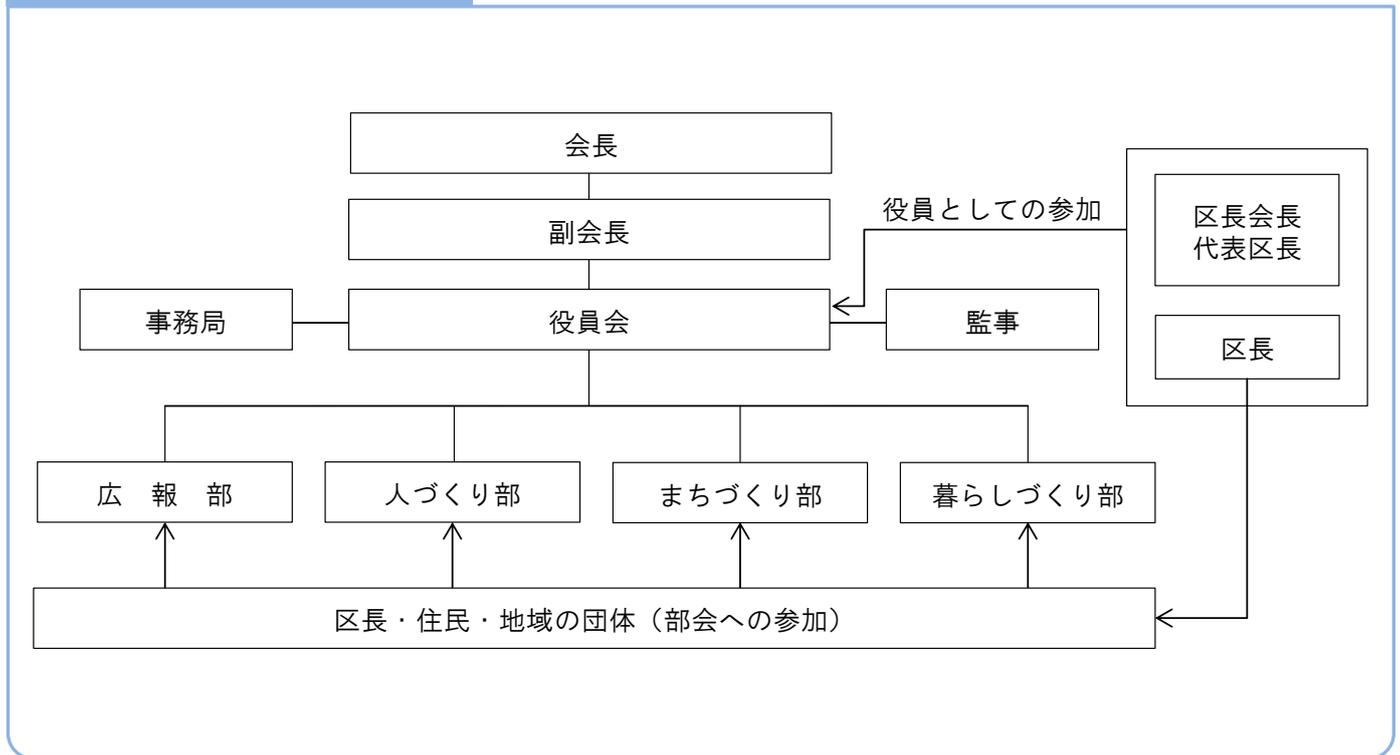
代表者名 柴原 重春
 設立年月日 H27.8.30
 役員体制 会長 1 名、副会長 2 名、理事 8 名（各部の正副部長）、監事 2 名、事務局長 1 名
 顧問 2 名

設立までの経過

*平成 26 年 4 月モデル開始



組織図



はじめの第一歩計画

スローガン～人が集い、ともに考え、いきいきと働ける資母～

広報部

- ・インターネットを使った資母地域の情報発信
- ・広報誌の発行

人づくり部

- ・子育てがしやすいまち (子育て支援)
- ・人づくりマイスターを探せ (人材の発掘)
- ・若者・夢プロジェクト
- ・困ったことを受け止め、共に考える。

まちづくり部

- ・農地の活用促進、放棄田等の解消・美化 (地区との連携)
- ・農産物生産と販売拡大 (地域づくりの会との協働)
- ・農業教室の開設 (PTA、学校、公民館等)
- ・観光の振興 (イベントへの積極的な参加)

暮らしづくり部

- ・地区と消防団との関係づくり (地域防災)
- ・安心して利用できるチクタクのシステムづくり
- ・危険な廃墟を増やしたくない (空家対策)
- ・安心と生きがいづくり (救急情報キットの設置)

全体

- ・地域懇談会の実施
- ・地域情報の集約と発信
- ・地域内の各種団体及び事業への積極的な参加と協働
- ・研修及び協議の場づくり
- ・資母まちづくり計画の策定

分野別取組み内容

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">地域振興</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①空き家対策（空き家調査等） ②資母小学校の秋季運動会を地域で盛り上げる活動 ③資母小学校を拠点とした活動（ラジオ体操） ④「きれいな資母に」（景観を美しくするための活動） ⑤子どもの見守り活動 ⑥広報紙「資母発見伝」発行 	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">地域防災</p> <ul style="list-style-type: none"> ①安心・安全キット普及活動 ②普通救命講習 ③消防団による活動
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">地域福祉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①チクタク資母 ②サロン活動 ③歩キング体操の推進 ④一人暮らし老人宅の除雪、見守り 	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">人づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ①宝まつり ②じゃがじゃがまつり ③宝市場 ④歴史講座 ⑤地域の人材の紹介、文化の継承 ⑥乳幼児教室「ちゅうりっぷくらぶ」 ⑦放課後子ども教室 ⑧公民館各種教室

コミュニティの取組み



平成 27 年 8 月に資母まちづくり協議会が発足するまでは、「地域づくりの会・しぼ」が主体的に活動を進めてきました。

これまでに、広報紙「資母発見伝」を第 46 号まで発行し、地域情報として地域の皆さんの意識を共有するとともに、地域外の人々にも毎月約 200 部を郵送配布しています。

また、歴史の再発見や伝承にも努め、荒地の景観を保つためにひまわり園を設置しました。

草刈りボランティアや地域イベントへの手伝いと参加・協力により

協働の心が育ち、11 月に開催している「資母の宝まつり」で地域の力が結集します。

そんな地域の活動は、新たに発足した「資母まちづくり協議会」に受け継がれ、さまざまな団体や住民の活動を支援し、共に行動するコミュニティを目指して、少しずつ歩みを始めています。

《一人一人が大切にされ、安心して暮らせるまち、資母をめざして!》

いつも楽しみながら地域づくりの活動に参加しています。

資母は、春はチューリップまつり、夏は食べ物を持ち寄って夕涼み、秋は秋祭り、冬はご高齢者のお宅の雪かきなど、四季を通じて隣近所と声を掛けあいながら生活しています。

地区外の人にもこの良さを知ってもらって、「良いところですね」とか、「また来たい」などと言ってもらえると嬉しいですし、そう言ってもらえるように資母の魅力を多くの人に伝えていきたいです。



沖中久子さん
(地域の応援隊)